平成 25 年 7 月 1 日発行

ゆきつばき通信

第　157　号　　大町山岳博物館友の会

山博と友の会

大町山岳博物館館長
宮 野 典 夫

山岳博物館は今年で 62 歳になります。山博の歴史の中でさまざまな出来事があったように、外郭団体にも変遷がありました。今までの経緯を振り返り、山博と友の会について考えたいと思います。

山博が誕生した昭和 26 年の 2 年後には研究会が発足し、歴史・民俗、植物、動物、地学、気象などの部制を設けて見学会や採集会、談話会、人形劇、映画スライド上映会、講習会など年に 10 回以上の活動をしてきたほか、研究会会報も発行しています。

昭和 31 年からは同好会が発足し、「山の歌声」の活動が開始され、同好会と研究会との共催で採集会なども活発に行っています。昭和 32 年には同好会として「染色の会」「銀河会」「登山研究会」が独自の事業を組むようになりました。このほかに山博主催の教室なども開催しています。

昭和 34 年には研究会や同好会を友の会と改称して、単独の行事や山博との共催で行事を催しています。小鳥の声を聞く会はこの当時に友の会主催で行われていたのが、現在でも山博主催ではありますが、引き継がれています。また、

同好会が独立して、新たな組織のもとに発展したものもあります。

昭和 36 年からは山博主導の活動になり、昭和 53 年までこの体制が続きました。小鳥の声を聞く会や写生大会、自然観察会など年に１～４回、山博との共催で行っていますが、終盤は友の会の実体がかなり薄いものになっていたと、うかがっています。

昭和 53 年 5 月に新生友の会の準備会が行われ、8 月 12 日に学生総会が、8 月 19 日には一般総会が開催され、これが現在の友の会の原点となっています。山博との共催事業も含まれていますが、自主的な企画から運営まで友の会の役員や関係する方々の絶大なる努力と献身によって成り立ってきました。

このように山博と友の会の関係については、その時代に即しながら、紆余曲折してきましたが、会員の皆様のご理解とご協力があったればこそと思います。

研究会や同好会、旧友の会の発足時には「協働」という言葉は出てきませんが、山博の設立の経緯から始まり、山博と友の会との関係は「協働」の精神が息づいていたのではないかと推測できます。時代を先取りした先輩方々の「協働」の精神を大切にしながら、これからの時代に合った山博と友の会にするため、皆さんと一緒に考え、行動をしていきませんか。そのためには、主催、共催、後援という立場的なものを取り除き、意を共有してお互いの良い面を前面に出し、お互いが助け合った共同体として会員の皆様方に友の会に入っていてよかったと思っていただける活動を進めたいと考えております。

最近の山岳博物館から

おおまぴょん“ご来館”

晴天の付属園まつりでみんなを歓迎

ササユリがきれいに咲きました

報　　告

【古道 塩の道を歩く】
―佐野坂峠越え 白馬から大町へ―

山岳博物館・友の会共催事業
6 月 16 日（日）白馬村神城佐野～ゆーぷる木崎
参加者 14 人
関　悟志

友の会では平成 19 年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道「塩の道」をたどってきました。13 回目となる今年は、山岳博物館と友の会の共催事業として、友の会会員のほか、大町市などの地域の皆様にも広く参加していただける催しとして実施しました。

今回は、佐野坂峠を越え、白馬村から大町市へと入る約12㎞のコースを約7時間かけてゆっくりと歩きました。当日の参加者は 14 名（一般参加者 9 名、友の会会員 5 名）。例年通り講師に元大町市文化財センター文化財指導員・相澤亮平先生をお招きし、各ポイントで解説をいただきました。

大町市役所駐車場に集合し、車に乗り合って白馬さのさかスキー場へ。古くは「坂北（さかきた）」と呼ばれ、南の松本平・安曇野とは異なる独自の文化・風土が培われてきた佐野坂以北の白馬・小谷地域。南北の分水嶺であるとともに、南北の文化・風土の境界域でもある佐野坂峠越えルートの概要を相澤先生からご説明いただき、スタート。例年この時期に見ごろを迎えるカキツバタの花を目当てに近くの親海湿原へちょ

っと寄り道。今年の花の見ごろは例年に比べ少し早かったようですが、湿原の概要や周辺の植物について千葉学芸員から説明を受けた後、塩の道にルートを戻しました。カモシカが姿を見せてくれた佐野坂では、西国三十三番観音の石仏を順番に見ながら、杉木立の中を快適に歩きました。その後、湖水風景を眺めながら、青木・中綱・木崎の仁科三湖沿いに歩を進めました。途中、参加者として同行いただいた友の会の宮澤会長からは、佐野坂峠や仁科三湖周辺の地形・地質や岩石・鉱物について解説いただき、ダイナミックな大地の様子も感じることができました。また、原始・古代の遺跡や文化財、中世の仁科氏の歴史などについて清水学芸員から説明を受け、千国街道沿いの幅広い分野について知ることができました。

今年、ようやく大町に入るコースとなり、リレー形式で行ってきた「塩の道を歩く」も一区切りとなります。来年は、これまでの活動のまとめとなるような形で最終回を実施したいと考えています。参加者の皆様、お疲れ様でした。

〔記念写真は青木・堂崎観音堂にて〕

（担当運営部員：川崎(晃)・川崎(祐)、事務局担当：関・清水(隆)・千葉）

平成 25 年度の行事　今後の予定（いずれも博物館共催）

〇小坂共栄専門員といく　糸魚川世界ジオパーク探検ツアー（親子限定企画）

実施日時：平成 25 年 10 月 14 日（日）午前 6 時 30 分～午後 5 時

〇さんぱく座談会－もうすぐリニューアルオープン！

実施日時：平成 26 年 3 月 9 日（日）　午前 1 時 30 分～3 時 30 分

烏帽子の会活動報告

5/18（土）烏帽子の会総会を兼ねて、安曇野市の里山「角蔵山」登山を行ないました。

山頂までは 2 時間ちょっとですが、けっこうな急登が続きます。途中住吉神社奥社があります。天気にも恵まれ頂上では常念岳が見える広場でゆっくりと昼食をとりました。

下山後、「ほりで一湯」で総会を開催しました。参加者 10 名。山岳博物館ホームページで山行の様子をアップしてます。御覧ください。

※次回の予定は、7/27（土）風吹大池を予定してます。

ボランティアサークル便り

今年のサクラソウ駅前栽培展示は「くろよんまつり」に合わせて一週間予定をのばして展示しました。多くの方にご覧いただけたと思います。このほか、園内除草、館内説明や写生大会の受付などを

行ってきました。

ボランティアサークルの研修は、今年度は飯田市美術博物館や飯田市動物園での研修を計画しました。また、大町市社協より今年度も活動に対して補助金が支給されることが決定しました。

〈当面の活動予定〉　夏季多客期の館内案内もお願いします

7 月 21 日（日）　午前 9 時 30 分～　湿原植物園及び付属園内の除草　２階テラスの清掃

8 月 18 日（日）　午後 1 時 30 分～　湿原植物園及び付属園内の除草　２階テラスの清掃

※ボランティアに関心、興味のある方を随時募集しています。初めて参加される方は事前に博物館まで申し出てください。ボランティア保険に加入手続きを取ってから参加していただくようになっています。

事務局担当：有川美保子

ゆきつばき通信編集室より

新しい行事体制となって「塩の道を歩く」が終了しました。一応、糸魚川－大町がつながりましたので、今後どうしていきたいかみなさんの意見をお待ちしています。

広く市民の皆さんに参加いただきたく、特に子供さんに参加いただきたく、また、ぜひ友の会に入っていただきたく、今年の行事を組んでいます。行事内容が充実したものの参加機会が絞られる形にもなってしまいましたが、これもみなさんの意見をいただく中で拡充していきたいと思います。

次号では文集「ゆきつばき」の原稿募集を行います。日々の思いをぜひ綴っておいていただければと思います。

（丸山卓哉）

行事のご案内については博物館ホームページの案内をご覧ください。
今回ご案内した行事は下記のとおりです。

【山岳博物館・友の会・くろよん 50 周年記念事業実行委員会　共催事業】

8 月 4 日（日）　**宮野典夫館長といく親子でライチョウ観察ツアー**

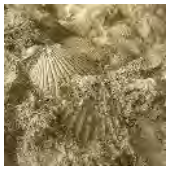
≪二次募集について≫　親子限定ですが、欠員が生じた場合には、７月１０日（水）から２６日（金）まで大人のみを対象に募集を行います。

【山岳博物館事業】

7 月 7 日（日）まで　**動物写生画展**　開催中

7 月 27 日（土）～9 月 1 日（日）

企画展「黒部ダム・関電トンネル写真展」



こども夏期だいがく

■8 月 1 日（木）　「大地のなぞさがし」

■8 月 2 日（金）　「川原の昆虫さがし」

8 月 8 日（木）**自然ふれあい講座**　長野県環境保全研究所　共催

「みんなで温暖化ウオッチ～セミのぬけがらを探せ！」

ゆきつばき通信　第 157 号 web 版

発行／大町山岳博物館友の会　　平成 25 年 7 月 1 日

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

山博ページ　http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

友の会ページ　http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/tomodown.htm